

社会福祉法人さつき会 事業所一覧

	玄海はまゆう学園 福岡県宗像市江口6-8	
	施設入所支援	30名
	生活介護	40名

	はまゆうワークセンター宗像 福岡県宗像市自由ヶ丘南3丁目32番地	
	就労継続支援B型	60名

	さつき学院 宗像キャンパス 福岡県宗像市自由ヶ丘南3-30-4	
	自立訓練（生活訓練）	20名

	はまゆうワークセンター自由ヶ丘 福岡県宗像市自由ヶ丘3-16-1	
	就労移行支援	10名
	就労継続支援B型	10名
	就労定着支援	

	はまゆうワークセンター大野城 福岡県大野城市大城5-28-3	
	就労継続支援B型	50名
	就労継続支援A型	10名

	相談支援センターはまゆう 福岡県大野城市大城5-28-3	
	特定相談支援／障害児相談支援	
	地域移行支援／地域定着支援	

	パルテールはまゆう 福岡県大野城市大城5-28-9	
	共同生活援助	10名
	短期入所	2名



障がい児者地域生活支援センターはまゆう

福岡県宗像市自由ヶ丘南3丁目 32 番地

特定相談支援／障害児相談支援

地域移行支援／地域定着支援



障害者就業・生活支援センターはまゆう

福岡県宗像市田熊5-5-2

障がいのある方の就業面の支援及び就業に伴う生活面の支援



宗像市障害児通所支援事業所 げんきっこくらぶ ほっぷ

福岡県宗像市久原 370 番地 1

放課後等デイサービス(重症心身障害児以外) 10 名

放課後等デイサービス(重症心身障害児) 5 名

児童発達支援 (重症心身障害児以外) 10 名



げんきっこくらぶ じゃんぷ

福岡県宗像市自由ヶ丘 3-16-1

放課後等デイサービス(重症心身障害児以外) 10 名



げんきっこくらぶ るーつ

令和3年5月 開所

児童発達支援 (重症心身障害児以外)

10 名

保育所等訪問支援

ライフアップはまゆう



シーサイドヒル

福岡県宗像市田野字正吹 309-1

共同生活援助	7名
短期入所(空床型)	1名



フローラ

福岡県宗像市陵巖寺 4-9-20

共同生活援助	7名
(うち、サテライト型住居	1名)



サニーヒル

福岡県宗像市田野字正吹 310

共同生活援助	7名
短期入所(空床型)	1名

玄海はまゆう学園 令和2年度事業報告書

1 玄海はまゆう学園

令和2年度は、「コロナに始まりコロナで終わる」という、世界中が緊張した1年であった。

年度中に2回の緊急事態宣言が出されたが厚労省からは、「利用者とその家族の生活を継続支援するために必要なサービスは、継続的に提供されることが重要」という通達があった。そのため、通所については、家庭でのコロナ対策を徹底していただく通知を出して受け入れを行った。また、園内は室内の換気を行うとともに、定期的に消毒を行うなど衛生管理に努めた。職員は、日々感染対策をとるとともに、1月から3月は福岡県が行うPCR検査を受け、感染者はいなかった。

また、コロナ感染対策として国や宗像市から補助があり、感染者が出たときに対応する防護服、シューズガードなどと、ウイルスを光触媒で除去する空気除菌清浄機などを購入した。

利用者の洗濯物などは、ワーク宗像が請け負っていたが、今年度はワーク宗像が使用していた業務用洗濯機・乾燥機を学園のどろんこプレハブに移設し、洗濯専任の職員を雇用して学園内で洗濯業務を行った。

利用者の支援では、事業所の目的である「利用者の安心・安全・楽しみ」を提供することに努めるとともに、誰もが同じ視点をもって業務ができるよう報告・連絡・相談の徹底とケースカンファレンスの充実を図った。

2 福祉サービス提供

(1) 施設入所

○入所：30名（定員30名）

○平均年齢 40.2歳 平均障害区分 4.6

○入浴、排泄、食事、健康管理等の生活支援を行う。自分でできることは自分で取り組むように促し、利用者ができる方法を考えた支援を行う。今後の高齢化や入院時の対応など保護者や各機関と連携体制を構築していく必要がある。

(2) 生活介護（日中活動）

○利用者数：入所者30名 通所者16名 計46名（定員40名）

① 日中活動

各作業活動：2班3グループに分かれ、日中活動支援を行う。利用者がやりがいや楽しみを持って活動に参加できるよう、仕事だけではなくレクリエーションやウォーキングも実施する。仕事と余暇のメリハリをつけることで、生活リズムの安定や利用者の生きがいややりがいに繋げている。

【どろんこ班】利用者23名

農作業、缶つぶし作業を行う。農作業では、さつま芋の「ジョイホワイト」と「黄金千貫」を植え付けし草取りなどを行い、収穫したさつまいも「ジョイホワイト」（277kg）と「黄金千貫」（388kg）を小林酒造に納品し、焼酎「自立」「黒浜姫」を製造してもらう。

宗像地域のホテル等から空き缶を回収し、分別・潰し作業を行いリサイクル工場に出荷し、アルミ205,315円（2,090kg）、スチール12,991円（660g）合計218,306円の収益を得る。

【なごみ班】利用者 計23名

○軽作業グループ 利用者14名

ビーズでアクセサリ作りを行う。ネックレスなど出来た商品を『道の駅むなかた』と『ハートループ（宗像市役所内売店）』に納品して、17,270円の売り上げがあった。

○療育グループ 利用者9名

主に療育活動に取り組む。健康・衛生の維持を重点とし、ウォーキングや日常生活訓練、機能維持訓練、ミュージックケアを行うことで、情緒安定に繋げている。

- ② 年間行事：季節に合わせた行事を予定していたが、コロナの影響で計画どおり実施できなかった。

4月24日(金)	お花見昼食会(園内レク)	10月26日(土)	THANK YOU 文化祭(園内レク) 例年は保護者も一緒に参加するが、今回は利用者のみで行う。
5月5日(日)	ワックス掛け。ラグビー観戦(園外レク)：中止、篠栗方面のドライブに変更	11月7日(土)	パレットピクニック&ミニさつき祭り (道の駅むなかた)
5月30日(土)	運動レクリエーション(ゆうゆうぶらざ)：中止	12月17日(木)	餅つき会(園庭)
7月16日(木)	園外レクを中止、園内レクに変更。 七夕会：七夕飾りづくりと縁日などで楽しむ。	1月14日(木)	新年会及び成人・還暦・古希のお祝い会 (例年は、外食で新年を祝っていたが今年は刺身付弁当となる) 宗像大社初詣(各班ごとに参る)
9月17日(水)	BBQとプール遊び(園内レク)	2月18日(木)	はまゆう喫茶(園内レク、保護者会参加なし)
9月24日(木)	第1回定期健康健診	3月18日(木) 3月25日(木) 3月4日(木)	余暇外出(なまぎの郷) " 第2回定期健康健診

- ・コロナの影響で外出が厳しかったため、定期的にふれあいの森に行きウォーキングを行う。
- ・「ふろの日」：毎月26日に浴室を四季折々に演出して入浴を楽しんだ。
- ・「誕生会」：「ふろの日」に合わせて、厨房で作ったおやつを午後のおやつの時間に食べながら誕生者を祝った。
- ・池野地区夏祭り・池野地区文化祭：例年参加しているが、コロナの影響で中止となる。

- ③ ボランティア：地域の方々の協力を得ながら、利用者がより充実した生活を送れることを目的としている。

○シーツ交換ボランティア：コロナの影響とボランティアの高齢化に伴い活動を終了する。

○音楽療法(1人)：毎月第2・4水曜日 15:00~16:00
コロナの影響で緊急事態宣言中は中止となる。

○3B体操：コロナの影響で中止となる。

(3) 短期入所・日中一時サービス

① 短期入所支援：宿泊を伴う日常生活支援

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
利用延べ人数	39	27	34	57	52	42	54	68	47	48	37	67	47.7

② 日中一時支援：日中の日常生活支援

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
利用延べ人数	15	14	4	8	10	7	3	9	12	3	1	7	7.8

3 人材育成

① 会議の実施

毎月1回、職員会議と班会議、リーダー会議を開催し、職員間の情報共有や課題抽出・ケース検討を行う。

② 内部研修の実施

職員の資質向上、意識向上を目的に内部研修及びケースカンファレンスを実施する。

4月24日(金)	風水害避難訓練：中止
5月29日(金)	ナレッジコラボレーションⅠ
6月26日(金)	ナレッジコラボレーションⅡ
7月31日(金)	感染症について
8月28日(金)	救急救命講習：中止 個別支援計画作成
9月25日(金)	個別支援計画作成
10月30日(金)	アンガーマネジメント
11月27日(金)	てんかん発作：中止
12月25日(金)	虐待を予防するために
1月29日(金)	個別支援計画作成
2月26日(金)	個別支援計画作成
3月26日(金)	マニュアルの見直し

4 保護者会

本人・家族が安心できる学園にするため例年は、保護者会と施設がしっかりと情報共有することに努めているが、コロナの影響で役員との情報共有のみとなった。また、保護者会と連携して行っている活動は、すべて中止となる。

「はまゆう喫茶」が中止になったことなどから、定期的にアイスや果物、お菓子、ジュースなどの提供があった。

年度末には、ソファ1台(3人掛け)とスツールソファ3個を寄贈していただく。

はまゆうワークセンター宗像 令和2年度事業報告書

1. 実施サービス

令和2年度利用実績(3月末実績)	
就労継続支援 B 型	52名/60名
利用者数(総数)	52名/60名

《利用者増減の推移》

- R2年 4月 自立訓練(廃止)からB型へサービス移行 (5名)
- R2年 5月 新規利用開始1名
- R2年 5月 契約終了1名
- R2年 10月 契約終了1名 (生活介護へサービス変更)
- R3年 3月 新規利用開始1名

2. 就労支援収益

	令和2年度実績	令和1年度実績
酒事業	393,023	675,848
製品事業	3,299,549	4,360,889
委託事業	10,582,393	13,879,196
売店事業	9,619,314	11,759,740
合計	(↓) 23,894,279	30,675,673
平均工賃/月	(↓) 12,855	13,715

3. 事業別

(1) 就労継続支援B型

① 外作業 (公園除草・お庭番)

- ・公園除草、エコパーク除草は計画に沿って、お庭番はお客様からの依頼に応じて作業を進めた。感染防止のためマスク着用が必要となるため、例年以上に熱中症のリスクが高く対策を徹底した。
- ・新たに取り組んだソリューションウォーター関連業務では、年間767,187円の売上げとなった。
- ・日の里団地清掃、いちごポット土入れ作業など短期の作業依頼があり、売上げアップにつなげることができた。

② 室内作業

- ・一部作業がコロナ感染拡大により影響を受けた。秋以降は徐々に通常の作業量を回復することができた。
- ・軍手選別作業(アルサ)について、会社都合により9月以降作業搬入が止まっている。今のところ再開の目途がたっていない。
- ・12月以降パロマ関連作業の種類が増え、作業の流れも定着している。次年度に向けても売上げアップが見込まれる。

③ 食品加工（クッキング・厨房）

- ・12月（クリスマス）、2月（バレンタイン）の売上はおよそ450,000円で前年度を上回ったが、それ以外の月はイベント縮小等もあり前年度の売上を下回る月が多かった。
- ・12月より新商品スコーンをハートループにて販売開始した。ほぼ毎回完売している。
- ・HACCP導入に向け書類作成など準備をすすめた。（令和3年6月より実施）

④ 施設外就労（リサイクル・農業・クレリア）

【リサイクル】

- ・4月下旬～5月にかけて作業が休止となった。再開後も参加を自粛する利用者が出るなど影響が長引いたが、秋以降は通常のペースに戻った。リサイクル工場担当者や3園協議会での話し合いを重ね、対策を取りながら現在に至っている。

【農業】

- ・作業日数が月により大きく変動し、収入が安定しなかった。
- ・現在は半日で70～80コンテナを目標に取り組んでおり、水菜の生育状況にもよるがほぼ達成できている。（利用者により収穫量には差が生じている）

【クレリア】

- ・4月より新たな施設外就労として取り組み、平日午後2時間半の作業を行った。
- ・時給400円（利用者分のみ）からのスタートとなり、今後も収益アップは難しいため、協議の結果年度内で契約終了とした。

⑤ 売店事業

- ・4/23～5/31の間臨時休業とし、それを機に営業時間と所員の作業時間を見直した。これまで事務職員が担っていた売店関連事務業務の一部を売店パート職員に移行するなど、様々な改革も行った。
- ・売上げに関しては、3月に年度最高の1,165,989円となった。

4. 理念実現プラン

【利用者のために】

- ・グループ活動の日 6月・8月・2月実施
- ・4月 全体レクリエーション
- ・9月 夏祭り（予定していたバーベキューを変更）
- ・11月 リトルさつき祭り・日帰り旅行
- ・12月 クリスマス会

【職員のために】

- ・作業部門ごとの収入を全体会議で把握することにより、意識向上を目指した。
- ・残業申請方法を見直し、期限を決め自己申告制とした。個々により差はあるが、今後も継続する。
- ・ノー残業デーを実施した。（7月・10月・2月）

【地域のために】

- ・新型コロナウイルス感染拡大に伴い、予定していた地域イベントへの参加、小学生との交流等、ほぼ全て見合わせとなった。
- ・9月 中村学園短期大学部幼児保育学科実習受け入れ（1名）

さつき学院 宗像キャンパス 令和2年度 事業報告書

1, 令和2年度利用者数(令和2年3月31日現在)

さつき学院 宗像キャンパス：自立訓練（生活訓練）2年 就労移行支援事業2年

自立訓練（生活訓練）：登録者数 6名 就労移行事業：令和4年4月開校予定

宗像市内利用者：5名 その他：1名（糟屋郡） 【出身学校：古賀特別支援学校 6名】

2, 事業所の目的

毎日をもっと豊かに、社会で活躍出来る人材の育成をモットーに、社会人基礎力の形成、個々の専門力を伸ばす。※社会人基礎力⇒①気付く力 ②挑戦する力 ③コミュニケーション力

2, 目的達成の為にプログラム (7科目)

① 一般教養	時計/数字の理解/計算/カレンダー/曜日感覚/集中力/金銭学習 など
② ヘルスケア	運動/食育/衛生管理/ADL トレーニング など
③ コミュニケーション	SST/言葉遣い/聞く力・姿勢/グループワーク/あいさつ など
④ 就労訓練	社会人マナー(礼儀作法)/身だしなみ/就労意欲向上に向けて/作業学習 など
⑤ フィールドワーク	体験型活動/社会経験の向上/買い物学習/調理実習/作業実習 /交通実習 など
⑥ 専門	アンダーコントロール/創作活動/技術/家庭科/パソコン技術 など
⑦ 余暇活動	外出活動/レクリエーション/イベントプログラム など

3, 年間スケジュール

4月	5月	6月
<ul style="list-style-type: none"> ・入学式 (令和2年2月に内定式実施) ・調理実習の実施 ・職員会議の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅支援の実施※休校の為 (個別課題の提供、個別での運動) ・職員会議の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・調理実習の実施 ・職員会議の実施
7月	8月	9月
<ul style="list-style-type: none"> ・調理実習の実施 ・期末テストの実施 (体力テスト・筆記テスト) ・職員会議の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・調理実習の実施 ・施設外実習（とうもろこし収穫体験） ・職員会議の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・調理実習の実施 ・避難訓練の実施 ・夏祭り（ワーク宗像合同） ・職員会議の実施
10月	11月	12月
<ul style="list-style-type: none"> ・調理実習の実施 ・職員会議の実施 ・企業見学の実施 (宗像清掃工場エコパーク宗像) ・入浴活動の実施 ・施設外実習（サツマイモ収穫体験） 	<ul style="list-style-type: none"> ・調理実習の実施 ・大分（豊後高田市）日帰り旅行 (ワーク宗像合同) ・パレットピクニック・リトルさつき祭りの実施（販売体験の実施） ・期末テストの実施 (体力テスト・筆記テスト) ・職員会議の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・宗像市食生活改善推進会との料理教室の実施 ・忘年会 (午前：テーブルマナーの座学実施) ・職員会議の実施
1月	2月	3月
<ul style="list-style-type: none"> ・調理実習の実施 ・施設外実習（キャベツ収穫体験） ・職員会議の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・調理実習の実施 ・避難訓練の実施 ・職員会議の実施 ・虐待研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会の実施 ・期末テストの実施 (体力テスト・筆記テスト) ・職員会議の実施

3. 実施報告

【利用者のために】

《Off-JT（施設外実習）の実施》

- ・地域の企業（NPO法人カラフル・パレット）との連携を強化し、Off-JT（施設外実習）を実施。果樹園での作業にてキウイフルーツなどを栽培。また加工品（梅干し・漬物など）の生産と共に販売し、「生産⇒販売⇒対価を得る」の一連の流れを体験することで就労意欲に繋げることが出来た。

《継続した支援の実施》

- ・感染症拡大防止の為休校措置（水・土のみ開所）をとった際も、利用者に対して個々に応じた課題の提供や、保護者・利用者の要望に応じて運動などを個別に行行った。在宅で過ごす利用者への孤独感や閉塞感の緩和にも繋げることができた。

《学期末テストの実施》

- ・学期末ごと（7月・11月・3月）に定期テスト（体力テスト・筆記テスト）を実施。目的としては、普段の学びをより定着させるため、今後の就職の面接などに対する緊張感を定期的に経験してもらう為実施。

（テスト実施一週間前に事前課題を配布し、自発的に課題に取り組む環境を提供）

体力テストに関しては、文部科学省規定の体力テストに沿って実施（体力の維持、向上を図る為）。

【職員のために】

《個々のマネジメント力の向上》

- ・新規事業に携わることで経営面、支援面などでも職員個々のマネジメント力の向上に繋げることができた。また定期的にオープンキャンパスを開催することで、職員のプレゼンテーション能力・保護者対応の向上に繋げることができた。

《法人内の他事業所との連携強化》

- ・法人内の各事業所との繋がりを持つことで職員間の交流や助言を受ける機会を作ることができた。当事業所だけではできない作業を経験させてもらうことで、職員の支援の幅を広げることができた。

《研修》

- ・法人内研修にて虐待研修（アンガーマネジメント）を行い、各職員の自己研鑽に繋げることができた。

《他企業との関わり》

- ・NPO 法人カラフルパレット・宗像緑地建設株式会社との繋がりを持ち、他企業の職員の方々と接することで見識を広げ職員自己研鑽に繋げることができた。

【社会のために】

《新しい地域資源の創設》

- ・新しい地域資源（地域初の福祉型学校開校）を作り出すことで、地域の障害を持つ方の将来の選択肢を広げることが出来た。また宗像近郊の方に限らず、遠方の方（太宰府など）も対象にすることで、様々な地域の方にも利用頂ける環境を提供した。

《ノーマライゼーションの実現に繋げる活動》

- ・地域資源（宗像ユリックス内の図書館、地域の直売所での納品）を積極的に活用することでノーマライゼーションの実現に繋げる活動を行うことができた。
- ・様々なイベント（パレット・ピクニックなど）に積極的に参加し販売体験などを通して、地域に住む障がいを持っている人と持たない人との交流の場を作ることができた。

《ボランティア活動》

- ・ウォーキング中にゴミ拾い活動等も取り入れ、地域に貢献できる活動を行うことができた。

《地域での雇用機会の拡大》

- ・新たなサービス（福祉型学校）を開校することで、福祉に対して興味を持った地域の人材を雇用することに繋がった。福岡教育大学出身の人材を令和3年4月より雇用することができた。

はまゆうワークセンター自由ヶ丘 令和2年度事業報告書

1、実施サービス

令和2年度利用実績(3月末実績)	
就労移行支援	6名/10名
就労継続支援B型	8名/10名
就労定着支援	5名/10名
利用者数(総数)	19名/30名

《事業所状況増減の推移》

	令和2年度末実績	令和元年度末実績
利用登録者数	14名	17名
平均月利用者数	13.3名	15.3名
就職・内定者数	5名	3名
平均工賃/月	3,968円	5,156円

《就職者内訳》

- A氏・・・福岡市の企業にて事務業務→離職
- B氏・・・水巻町のドラックストアにて商品管理業務→継続中
- C氏・・・新宮町の車両販売店にて洗車業務→継続中
- D氏・・・福津市の企業にて事務業務→継続中
- E氏・・・宗像市の工場にて洗浄業務→継続中

《新規利用者・退所利用者内訳》

新規利用者 移行1名、B型0名、定着3名

退所利用者 移行0名、B型1名、定着0名

2、事業について

・体験・見学・実習の積極的受け入れ

体験・見学件数・・・9件

特別支援学校実習生徒数・・・6名

就労アセスメント件数・・・0件 ※特別支援学校内で実施したため

・放課後等デイサービス『げんきっこくらぶ じゃんぷ』との連携

お仕事の体験や自由ヶ丘の利用者との関わりを持つ経験を提供。

実施月	内容
7～8月	就業体験@ワークセンター自由ヶ丘内

3、理念実現プラン

<利用者のために>

事業所内訓練・・・内職、オフィスワーク、座学、SST、グループワーク、創作活動
事業所外訓練・・・スーパー、清掃作業、求人検索、個別の企業実習など
余暇活動・・・新年会、映画鑑賞、ウォーキング ※基本的には活動自粛

○工賃向上に向けての取り組み

- ・訓練内容の見直し
- ・単発・短期的な仕事を受注
- ・法人内事業所との共同受注
- ・名刺事業の拡大 ※法人内・市役所・民選委員など

○企業見学・企業実習

同法人の就業・生活支援センターや各関係機関と連携し、利用者が自分の意思で就業先や職種を選択出来る機会や経験を提供

- ・個別での企業見学・企業実習

見学先・実習先：事務業務、洗浄業務、商品管理業務、倉庫内ピッキング業務

<職員のために>

○支援の質の向上の為、就労支援向けの研修に参加

- 11月 事例検討会 ※就業・生活支援センター主催
- 12月 事例検討会 ※就業・生活支援センター主催
- 2月 雇用促進交流会

<地域のために>

○トヨタ自動車九州株式会社の方との取り組み

現在、新型コロナウイルスの影響により当面休止。再開時期は未定。

<今後について>

就職者が増加している為、就職者が仕事を続けられるように各関係機関と連携しながら定着支援を行っていく。

また、就労継続支援B型において訓練を重ね就職に必要なスキルを身につけてきている利用者が増えてきた為、今後本格的に就職活動を行う時期を本人の意思を確認しながら検討していく必要がある。

はまゆうワークセンター大野城 令和2年度 事業報告書

1,実施サービス

令和元年度利用実績(3月末実績)	
就労継続支援 A 型	0名/10名
就労継続支援 B 型	52名/50名
利用者数(総数)	52名/60名

2,就労支援収益

	令和2年度実績	令和元年度実績
食品(肉まん・委託)	7,816,036(↓)	10,721,876
軽作業	1,754,248(↓)	2,902,015
施設外作業	4,376,744(↓)	5,589,775
合計	13,947,028(↓)	19,213,666
平均工賃	9,291(↓)	11,258

3,事業別

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、すべての事業において大きく影響を受けた。

①食品(肉まん・委託)事業(利用者数:25名)

- ・これまでは「肉まん」「委託」「給食」の3つの部署に分けていたが、様々な作業を柔軟に行うため、「食品」事業部として1つにまとめた。
- ・引き続き豚まん・鳥まん・ぼたんまん(猪)を製造した。ホームページではまゆうの肉まんを知ったという関東のB型事業所から肉まんの注文を定期的に受けるようになった。
- ・イベントが軒並み中止となり、イベント販売での売り上げが激減した。
- ・委託の山八チーズ餃子も、緊急事態宣言での飲食店営業停止や時短営業に伴い売上が前年度の67%であった。
- ・(株)九州ソルトからの小分け作業については、当初料理教室用の砂糖小分け作業で560万の売上(粗利率30%)を見越していたが、完全に止まってしまった。

②軽作業事業(利用者数:10名)

- ・長年行っていた(株)ヨシケイのシート拭き作業を前年度3月で終了したが、その直後に新型コロナウイルス感染症が感染拡大し、新規事業として予定していた箱折作業が当初の売上見込みの10%程度にとどまった。
- ・軽作業の利用者はできる作業が限られる方が多く、作業の提供がとても難しかった。

④施設外就労事業(利用者数:17名)

- ・(株)日商アルミ、(株)新日本金属2社に出向いた。
- ・(株)新日本金属は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて売上が前年度の30%になった。一方、(株)日商アルミは年間通して作業を提供していただいた。ワークセンター内での作業が減る中、新たに訓練のために日商アルミへ作業に行く利用者を増やした。

4,理念実現プラン

<利用者のために>

◆新型コロナウイルス感染症の感染防止の取り組み

- ・時差送迎の実施(4月の緊急事態宣言中は、朝の通勤ラッシュを避けるため送迎時間を1時間遅らせ

て 10 時～16 時の利用時間とした)

- ・送迎ルート増便（車内の密を避けるために、送迎ルートを増やした）
- ・昼食時間に時差を設けた（食堂での密を避けるため、食事を 2 グループに分けて行った）
- ・座る際のソーシャルディスタンスの確保徹底（テーブルや床に目印をつけ、利用者へソーシャルディスタンスの徹底を働きかけた）
- ・マスクや手洗いの徹底を指導（なぜマスクの正しい着用が必要なのか、正しい手洗いの仕方とは、を繰り返しイラストを用いて説明を行い、常に掲示を行った）

◆当事者会（すまいる会）の取り組み

様々な行事が中止になる中、当事者会の役員と一緒に感染対策を講じた行事を検討し実施した（施設内宝探し/市内体育館を借りてレクレーション）

◆グループ活動

一人ひとりの選択や個性を尊重し、選択できる活動内容を提案した（創作・スポーツ・ミュージック）。

<職員のために>

◆研修の実施

パート職員も含めてスキルアップをはかるために研修を実施。下記の通り実施した。

実施月	内容
5 月 26 日	利用者一人一人の個別支援計画を周知する
6 月 24 日	東日本大震災の体験から、災害時の対応について学ぶ
7 月 29 日	大地震が起きた時の避難行動シュミレーション
9 月 30 日	個別支援計画に沿った支援を行う
10 月 30 日	情報伝達グループワーク/不適切対応のセルフチェック(虐待防止)
11 月 25 日	アンガーマネジメント研修（講師依頼：上田東洋一氏）
1 月 27 日	利用者工賃の仕組み
2 月 24 日	次年度に向けて（コロナの時代に合わせて柔軟に挑戦しよう！）
3 月 24 日	チームビルディング研修（マシュマロチャレンジ）

<地域のために>

地域の行事（大城納涼祭り・かまぶた区運動会等）は中止。

地元小学校との交流（4年生の福祉の授業）はオンラインにて行った。

相談支援センターはまゆう 令和2年度 事業報告書

1. 取り組み

- サービス等利用計画作成、モニタリングのための、アセスメント（ご自宅訪問）・担当者会議の開催・事業所訪問。令和1年8月より、児童の計画相談支援を開始する。
- 以前は特定の担当者が定着しないという課題があったが、現在専任相談員は定着している。
また、計画相談支援に留まらず、事業所間の連携や福祉の溝を埋めていけるような企画や仕組みを提案していきたいと考える。
- コロナウィルス感染対応については、消毒・検温の徹底を行う。事業所・自宅訪問については、相手の意向を確認し、訪問出来ない場合は電話連絡や書面で情報共有を行う。業務遂行において、大きく支障をきたすことはなかった。しかし、今後、現在の情勢の中では、ズーム会議の導入を検討していく必要があると感じる。

2. 筑紫地区地域自立支援協議会へ参加

【事務局会議】大野城市にて（1回/毎月）

事務局会メンバーとして。地域の福祉の現状や課題、今後の取り組みについて協議・検討する。

【権利擁護部会 事務局担当】（1回/2ヶ月）

弁護士・民生委員とともに、地域の困難事例について協議する。

【相談支援部会】（1回/2ヶ月）

相談支援事業所の連携構築と相談業務に関する課題や取組みについて協議・検討する。

【地域連携パス部会】（1回/2ヶ月）

医療と福祉をスムーズに繋げる「連携パス」の作成と活用について協議していく。

3. 請求実績

登録者数 令和2年度 123名 (成人：98名 児童：25名)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
新規	成人	0	1	1	1	0	1	0
	児童	0	5	3	0	1	0	2
更新 モニタリング	成人	19	24	16	21	17	20	25
	児童		6	2	0	1	0	6
終了	成人							
	児童							
登録件数	成人	94	95	96	97	97	98	98
	児童	10	11	14	14	15	15	17

		11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規	成人	1	0	0	0	0	5
	児童	2	2	2	2		19
更新 モニタリング	成人	19	22	18	30	8	220
	児童	4	3	1	4	5	32
終了	成人				1		1
	児童					1	1
登録件数	成人	98	98	98	98	98	98
	児童	19	21	23	25	25	25

今後、相談員の増員をし、相談員1人の担当件数を100件程度にし、緊急な時にも対応でき、かつ事業所と本人が安心して相談できるような丁寧な支援をしていきたい。

パルテールはまゆう 令和2年度 事業報告書

■ 共同生活援助

1,実施サービス (※令和2年10月より共同生活援助2ユニット化)

- ・共同生活援助①定員4名(女性) ・共同生活援助②定員6名(男性)

令和2年度利用実績(3月末実績)		
入居者数(総数)	① 2名	②6名 8名
新規入居者数	① 1名	②2名 3名
退所者	0名	

2,年間スケジュール

4月	5月	6月
<ul style="list-style-type: none"> ・トイレの使い方を確認しよう<研修> ・食事アンケート ・お風呂アンケート 		
7月	8月	9月
<ul style="list-style-type: none"> ・歓迎会(パルテールにて焼肉) 		
10月	11月	12月
<ul style="list-style-type: none"> ・クリスマスケーキを選ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・リトルさつき祭り(宗像) 	<ul style="list-style-type: none"> ・クリスマス会 ・大掃除
1月	2月	3月
<ul style="list-style-type: none"> ・歓迎会(パルテールにてお寿司) 	<ul style="list-style-type: none"> ・バレンタインデー 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトデー ・忘年会

3,理念実現プラン

<利用者のために>

・新型コロナウイルス感染拡大の影響により、予定していたイベント(外出、研修)はほとんど実施することが出来なかった。

・昨年より入居者、短期入所利用者のトイレの使い方について“次に使う人のことを考える”ことを意識づけるために、研修を行った。また定期的に確認し、その都度声をかけ、みなさんが使いやすい環境を整えた。

・今年度は入居者が新たに3名増え、パルテール館内で歓迎会を行った。(食事やレクリエーション)

・入居者に好評なイベント(ケーキ屋さんに行ってみよう、クリスマス会)に関して、みなさんでケーキ屋さんに行くことが出来なかったため、好きなケーキ屋さんから食べてみたいケーキを選んでいただき、クリスマス会を実施した。

・大掃除は、初めて全入居者で行った。各居室や共有の場を一緒に掃除し、“自分たちの住まい”の意識づけが深まり、入居者間で親睦が図れた。

・新型コロナウイルス感染予防対策として、一日2回の検温や食事時間の調整、手洗い・うがい・ソリューションウォーターでの消毒の必要性を伝え、パルテール館内や外出先での注意点を確認した。(玄関に足ふみ式ポンプを設置し、消毒。外出用のソリューションウォーターボトルを各自に準備。)

<職員のために>

- ・イベントを実施する際に、事前に職員間で内容を確認し、実施後振り返りを行った。
- ・入居者、職員に新型コロナウイルスの陽性の疑いがある場合の対応方法の確認を行った。
- ・出勤時の検温を習慣化し、1月より月1回のPCR検査を行った。

<地域のために>

- ・地域のお祭りが開催されず、地域の行事に参加する機会がなかった。
- ・近隣住民宅の草取り、剪定などを通して良好な関係を築くことが出来た。

■短期入所

令和元年度利用実績(3月末実績)		令和2年度利用実績(3月末実績)	
契約者数(総数)	49名(男30・女19)	契約者数(総数)	50名(男32・女18)
新規契約者数	12名(男7・女5)	新規契約者数	9名(男7・女2)
平均利用者数(月)	8.1名/月	平均利用者数(月)	5.1名/月
平均利用泊数(月)	22泊/月	平均利用泊数(月)	21泊/月

《利用者数内訳》

4月		5月		6月		7月		8月		9月	
5		2		3		5		5		5	
はまゆう	外部										
4	1	2	0	3	0	5	0	5	0	4	1
10月		11月		12月		1月		2月		3月	
9		6		7		4		4		7	
はまゆう	外部										
8	1	4	2	5	2	3	1	3	1	4	3

《利用泊数》

4月	5月	6月	7月	8月	9月
22	15	13	26	12	21
10月	11月	12月	1月	2月	3月
30	26	29	19	18	30

- ・昨年度、短期入所を利用していただいた3名が、今年度共同生活援助を新たに利用開始した。
- ・新型コロナウイルス感染拡大のため、短期入所利用者の受け入れの制限を行ったため、利用者数は昨年度に比べて少なかった。
- ・利用者によって、利用日を曜日で固定し、スケジュール表を作成して情緒面が安定した。
- ・10月より短期入所の一日の定員を3名から2名に変更した。
- ・短期入所利用者の自立度に応じて、職員2名体制で対応し、利用者と一緒に物の整理(きれいなものと汚れたものを分けたり、洋服をたたむ)をしたり、入浴面でサポートを行った。

令和2年度 事業報告書

障がい児者地域生活支援センターはまゆう

1 支援センターはまゆうの取り組み

学校や病院で担当者会議を開催し、学校関係者、医療従事者と情報共有を図り、連携を深める。基幹と連携し地域移行支援の相談にも対応する。地域の課題把握に努めるため、自立支援協議会開催の会議へ出席する。発達障害児者の地域における支援を強化するため、相談窓口の周知を図り、行政や機関と連携し、本人・ご家族の相談へ対応し、家族の交流や情報交換の場を提供する。

(1) 会議の実施、会議への出席

- ・コロナ渦のため、複数事業所が参加する大人数の会議は開催を見送る。会議が必要な場合も4名程度と大人数にならないように努め、短時間で終わるなど感染防止に配慮しながら開催。福岡市などの感染者数が多い地域に関しては、ZOOMを利用し、リモート会議を開催した。
- ・ZOOMも活用し開催することで、感染者が多い状況下でも本人に不利益が生じないように心がけ、電話やメールなどその他の手段でも情報共有を図った。モニタリングに関しても同様とし、緊急事態宣言が発出され訪問が難しい場合はリモートでモニタリングを実施。
- ・リモートで開催された自立支援協議会へ参加し、放課後デイの利用日数、医療型福祉避難所、報酬改定について情報を共有。

(2) 地域生活支援拠点について

- ・地域生活支援拠点等の説明の会議を宗像市が2回開催。会議へ出席し、相談支援事業所として参加の予定。令和3年度に登録届けを提出予定。

(3) 地域における発達障がい者支援の強化

- ・市や基幹、保健所より紹介のあった相談につながない発達障がい者の相談へ積極的に対応し、情報提供や計画書の作成を継続。
- ・のぞみ園より紹介された令和3年4月より小学校入学予定の児童の計画依頼に関しても可能な限り受けるように努めた。
- ・毎月第3土曜の13時～16時に開催している発達障害者の家族対象のサロンも継続。緊急事態宣言が発出されている月は開催を中止。

(4) 研修参加

・大城

日時	場所	研修内容
12月23日(水) 14:00～16:00	宗像総合庁舎	病院から地域へ～退院支援との連携を考える～

・赤松

日時	場所	研修内容
9月～11月 (4日間)	ソフトリサーチパーク	相談支援従事者現任研修

<宗像市障害者自立支援協議会>

事業所と相談支援事業所との顔の見える関係作りや地域課題を情報共有し、共通認識を持つことを目的とし、ネットワーク会議と放課後等デイサービス連携会議へ参加。今年度は下記会議へ出席。

令和2年度放課後デイ連携会議 1月15日(金) 令和2年度第1回放課後等デイサービス連携会議
 いずれもリモート会議 内容: 放課後デイ利用日数上限設定、利用開始のお知らせ、
 学童の利用について

2月18日(木) 令和2年度第2回放課後等デイサービス連携会議
 内容: 標準利用日数超過理由書、標準利用日数の適用時期、
 「利用開始のお知らせ」について学校へ周知の報告

宗像市地域生活支援拠点に関する説明会 2月7日(金) 第1回説明会及び意見交換会
 地域生活支援拠点に関する説明、グループワーク

3月17日(火) 第2回説明会及び意見交換会
 地域生活支援拠点に関する加算、登録までの流れ、Q&A
 登録申請書、緊急時対応届出書

3 請求報告

年間請求一覧

【児童】

児童		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
	新規	1	0	2	1	2	0	1
	更新	17	12	2	14	9	14	12
	毛	21	19	17	12	19	29	14
	終了	0	1	0	2	0	0	0
	件数	153	152	154	153	155	155	156

児童		11月	12月	1月	2月	3月	合計
	新規	2	0	2	1	3	15
	更新	13	14	11	6	11	135
	毛	9	15	12	17	17	201
	終了	2	0	0	1	3(+7)	9(+7)
	件数	156	156	158	158	151	

【成人】

成人		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
	新規	6	1	1	4	6	4	5
	更新	24	6	5	13	13	5	9
	毛	25	27	34	32	25	34	24
	終了	3	3	2	1	2	1	0
	件数	168	166	165	168	172	175	180

成人		11月	12月	1月	2月	3月	合計
	新規	4	7	3	1	5(+20)	47(+20)
	更新	10	3	8	6	7	109
	毛	36	30	35	30	52	384
	終了	2	3	1	4	4	26
	件数	182	186	188	185	206	

児童件数 151 件 成人件数 206 件

令和 2 年度 事業報告書

障害者就業・生活支援センターはまゆう

1. 事業概要

(1) 目的

宗像保健福祉圏域における障害者の雇用促進を目的として、就業面及び生活面で一体的かつ総合的な支援を提供する。

(2) 事業内容

- ①就業面及びそれに係る生活面の相談・支援
- ②事業主に対する啓発・助言
- ③職場実習の斡旋
- ④連携会議の開催や関係機関との連携

2. 支援対象者

(人)

障害種別	身体		知的		精神		その他		合計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
	53	33	113	45	182	126	32	11	378	217
合計	86		158		308		43		595	

(年齢)

(人)

18～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60歳以 上	合計
13	146	159	141	90	46	595

3. 新規利用経路

(人)

病院	6
宗像市指定相談支援事業所	2
相談支援専門員	1
その他の相談事業所	4

直接利用	5
行政	10
就労移行支援事業所	8
A型・B型事業所	9
ハローワーク	4
学校	3
新規登録者合計	52

(居住エリア)

(人)

宗像市	福津市	古賀市	福岡市	その他	新規合計
35	13	1	1	2	52

4. 相談支援件数

(手段別)

(件)

センターへの来所	762
電話・FAX・E-mail	3,409
職場訪問	495
家庭訪問	80
その他（ハローワークへの同行、ケース会議への参加等）	480
合計	5,226

(内容別)

(件)

	身体	知的	精神	その他	合計
就職に向けた相談・支援	200	524	1,302	176	2,202
職場定着に向けた相談・支援	68	307	577	49	1,001
日常生活・社会生活に関する相談・支援	84	197	377	13	671
就業と生活の両方にわたる相談・支援	129	517	636	70	1,352
	481	1,545	2,892	308	5,226

5. 実習の斡旋状況

(障がい別) (件)

身体	知的	精神	その他	合計
2	16	17	0	35

(職種別) (件)

事務・事務補助	10	看護助手	1
店舗スタッフ	6	工場作業員	1
清掃	4	食品加工	1
洗車	3	食器洗浄	1
調理補助	3	介護	1
コンテナ洗浄	2	クリーニング	1
指導員	1		

6. 就職の状況

(障がい別) (件)

身体	知的	精神	その他	合計
4	11	21	6	42

(職種別) (件)

一般事務	13	クリーニング	1
店舗スタッフ	4	コンテナ洗浄	1
介護・介護補助	3	在宅事務	1
食品加工	3	ピッキング	1
清掃	3	看護助手	1
OA事務	2	調理補助	1
食品製造	2	作業員	1
洗車	2		

7. セミナーの開催・共催

※新型コロナウイルス感染症の流行により中止

8. 研修会・勉強会等の開催・共催

① 福岡県障害者就業・生活支援センター合同研修会

※新型コロナウイルス感染症の流行により中止

② 宗像市・福津市就労部会勉強会

ア. 日時：令和2年11月13日（金）17:30～19:00

場所：宗像市役所 304 会議室

参加者：16名

イ. 日時：令和2年12月1日（火）16:00～17:30

場所：宗像市役所 202 会議室

参加者：15名

9. 会議の開催

① 宗像市自立支援協議会就労部会（3回）

令和2年9月1日

令和2年11月13日 勉強会（宗像市役所）

令和2年12月1日 勉強会（宗像市役所）

② 福津市支援連携会議（1回）

令和2年11月17日（ふくとぴあ）

10. 余暇支援等、当事者活動の状況

*また、定例会（当事者サロン・家族サロン）として

毎月第3土曜日の13～16時、事務所のロビーを開放している。

今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、2部構成とした。1部を

13:00～14:30、5分間消毒・換気等を行い、2部を14:35～16:00とした。
5名程度の当事者の方が参加され、途中退出はない状況であった。

10. 総括

新型コロナウイルス感染症の影響により、例年とは大きく異なる1年だった。福岡県からの指導により、4月・1月には緊急性のない来所と外出を制限された。緊急性のある案件に関しても、30分という制限が付いた。サロンや余暇支援、SSTに関しては、登録者がスケジュール調整のできるギリギリ（1か月半前）まで開催の検討を行った。8月には様々な動きをすることができるようになったが、宗像市と福津市とでの取り組み方の違いはあった。

新しい形での事業の実施として、リモートで面談を行う登録者が出てきた。また、担当者会議の開催もリモート開催の時期があった。研修は概ねオンラインで行われたが、事業所の加算対象研修に関しては、対面で講師として参加している。

訪問や実習を拒否する企業が増えている状況下で就労支援を行ったが、就職件数や実習件数としては前年度と変わらない数字を挙げている。企業を訪問しない形での定着支援を強化する必要があり、相談件数が増えている。

すべての動きで例年とは違う1年だった。

宗像市障害児通所支援事業所 げんきっこくらぶ ほっぷ

令和2年度 事業報告書

1, 実施サービス

(1) 令和2年度利用者数(令和3年3月31日現在)

児童発達支援 重症心身障害児 0名 (既存登録者数 0名/今年度新規登録者数 0名)

放課後等デイサービス 25名 (既存登録者数 21名/今年度新規登録者数 4名)

【学校内訳：古賀特別支援学校 21名/福岡特別支援学校 5名/宗像高等学校 1名】

【学年内訳：小学部 15名/中学部 6名/高等部 4名】

《 退所者数 1名/卒業者数 1名 》 → 次年度開始時の登録者数 23名

放課後等デイサービス重症心身障害児 6名 (既存 5名/重心へ切替わった登録者数 1名/新規 0名)

【学校内訳：古賀特別支援学校 2名/福岡特別支援学校 4名】

【学年内訳：小学部 1名/中学部 2名/高等部 3名】

《 退所者数 0名/卒業者数 2名 》 → 次年度開始時の登録者数 4名

(2) 月別利用人数/合計総数・利用平均数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均/1日
放 デ イ	平日(177日)	0	0	8	173	88	151	179	166	157	128	152	108	1310	8.71
	土曜日(49日)	26	40	26	27	35	34	40	36	34	26	31	24	379	
	長期等(64日)	193	171	186	1	89	8	0	0	22	45	17	105	837	
	全日(290日)	219	211	220	201	212	193	219	202	213	199	200	237	2526	
放 デ 重 心	平日(177日)	0	0	0	24	7	18	20	20	17	11	17	14	148	1.30
	土曜日(49日)	8	11	10	8	11	9	13	11	11	7	9	8	116	
	長期等(64日)	25	25	30	0	15	0	0	0	3	6	1	9	114	
	全日(290日)	33	36	40	32	33	27	33	31	31	24	27	31	378	
計	全営業日	252	247	260	233	245	220	252	233	244	225	228	268	2904	10.01

2, 年間スケジュール

4月	5月	6月	7月	8月	9月
・臨時休校対応	・臨時休校対応	・臨時休校対応 ・音楽療法	・音楽療法 ・コケイン症候群 勉強会 ・囁託医会議	・音楽療法 ・交通安全教室 ・ボランティア交流 ・水遊び活動	・音楽療法 ・避難訓練 ・福祉課打ち合わせ
10月	11月	12月	1月	2月	3月
・音楽療法 ・ハロウィンイベント(地域交流) ・美術展出展	・音楽療法 ・リトルさつき祭り ステージダンス ・親子ウォークラリー ・5者会議	・音楽療法 ・イルミネーション 点灯期間 ・クリスマス会 ・5者会議	・初詣 ・放デイ連携会議 ・5者会議	・節分活動 ・バレンタインデー (地域交流・工作) ・虐待防止研修 ・放デイ連携会議 ・6者会議	・ホワイトデー (地域交流・工作) ・囁託医会議 ・避難訓練 ・高3生送別会 ・5者会議

※放課後主活動：リトミック(1週目)、工作活動(2週目)、サーキット(3週目)、レクリエーション活動(4週目)

※土曜日主活動：紙漉き(1週目)、習字活動(2週目)、音楽療法(3週目)、地域交流工作活動(4週目)

※児童作成の工作カレンダー配布先：介護老人保健施設 よつづか、特別養護老人ホーム 城山之荘、

宗像ユリックス、宗像ボランティアセンター、おもちゃ図書館、宗像市発達支援センター のぞみ園

※児童の活動写真カレンダー配布先：介護老人保健施設 よつづか、特別養護老人ホーム 城山之荘、近隣宅 5件

3, 理念実現プラン

【利用者のために】

- ・新型コロナウイルスによる緊急事態宣言発令により、令和2年3月から6月まで臨時休校となったが、ほっぷではこの4カ月間に時短することなく8:15~18:30で開所し、保護者からも大変感謝された。また、自宅待機された児童に対しても電話連絡等で状態確認を続け、学校再開時に併せてほっぷも再開しやすいように支援を行った。
- ・平日の主活動について週毎にメニュー設定した。また、日中の空き時間にもリトミックや室内ウォーキングを積極的に設定し、コロナ禍の施設内でも健康維持が出来るよう、習慣的かつ安定的な活動提供に務めた。
- ・土曜日の主活動も昨年に引き続き週毎に設定し、紙漉きや習字のように継続可能なものは毎月実施した。音楽療法については新型コロナが一時的に収束した期間の6月から12月に実施した。音楽療法の未開催月と、4週目の活動については、今年度は壁面制作等の工作活動を主軸に活動を行った。
- ・夏期期間中に全利用児童に習字活動に取り組んで頂いた。出来上がった作品はほっぷ内のえがおルームにて展示会を行い、お迎え時間に保護者に観覧して頂いた。展示作品の内5点は「福岡県障害児者美術展 書道部門」に出展し、1名の作品が教育委員会賞に入賞でき、11月の式典にて表彰された。
- ・交通安全教室は例年通り8月に宗像警察署の方に来て頂き、開催する事ができた。避難訓練は5月と11月の予定を9月と3月に変更し、例年通りの回数を実施する事ができた。また、折りたたみスロープを購入して車いす児童の災害時の段差移動について対策を講じた。

【職員のために】

- ・コロナ禍の影響により特別支援学校や外部事業所等の見学については、今年度は自粛した。
- ・重心枠に移動となった児童の難病「コケイン症候群」についての勉強会を行った。また、外部研修が難しい状況であったので今回は教材DVDを購入した。出勤する職員がその都度視聴する事で全職員が同じ内容を聞けるメリットがある為、今後の内部研修に使用していく。
- ・嘱託医会議をWeb会議で継続し、てんかん時の対応や筋緊張へのアプローチ等の情報を確認した。

【社会のために】

- ・児童の工作カレンダーや活動写真カレンダーの配布を今年度も継続した。緊急事態宣言により直接の外部交流が難しくなった為、本年度は郵送にてお渡しする体制をとった。活動的にお声掛けを継続する事で、コロナ過でも配布受け入れ先が減衰することなく、今年度も計12か所に対して発行する事ができた。また、前年度に紙すきから作成していた「しおり」を高齢者施設への郵送と、リトルさつき祭りにて約200枚を地域配布する事ができた。
- ・8月にボランティアセンターからハンドメイド製作者を派遣して頂き、児童一人ずつに手作りのぬいぐるみストラップを頂いた。児童からはお礼として、リトミックで練習したパブリカダンスを披露した。
- ・11月の家族参加イベントについては、今年度はパーベキュー等の交流会が難しかった為、メイトムやユリックス、海千の敷地をお借りして、親子ウォークラリーを開催した。その際に年間の活動写真をスライドショーでご家族に見て頂き、日頃の活動の様子も併せてお伝えする事ができた。
- ・近隣交流では「コロナ禍の自宅訪問についてのアンケート」にて近隣宅へ許可を頂き、継続実施できた。例年通り近隣4件に対し、ハロウィンでは児童がお菓子を貰って周り、バレンタインデーは奥様へ飾り用ポーチを、ホワイトデーではご主人へペン立てを、児童が工作してお礼の手渡しを行った。
- ・ほっぷの児童発達支援事業の今後について、宗像市福祉課と子ども支援課(発達支援室)、のぞみ園、宗像市障害者生活支援センター(基幹相談支援センター)とほっぷの5者で会議を重ね、これまでのぞみ園が長らく対応されていた、未就園児や肢体不自由児、重度の知的障害児のクラス枠をほっぷで引き継ぎ、令和3年4月より重症心身障害児の枠を外して幅広く児童も受け入れを開始する事となった。
- ・上記に宗像市子ども育成課を含めた6者会議にて、宗像市の幼稚園や保育園の障がい児受け入れ体制のバックアップについて協議した。

げんきっこくらぶ じゃんぷ

令和2年度 事業報告書

1, 令和2年度利用者数(令和2年3月31日現在)

(1) 登録者数 17名

【学年内訳： 中等部 4名/高等部 13名】

(中学1年：1名 中学2年：3名 中学3年：1名 高校1年：4名 高校2年：5名 高校3年：3名)

【学校内訳： 古賀特別支援学校 16名/福岡高等学園 1名】

(2) 開所日数/月毎利用人数/平均利用人数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	21	18	23	22	18	20	23	20	20	19	18	24	246
月毎利用人数	97	117	126	109	87	92	115	108	101	93	98	124	1267
平均利用人数	4.6	6.5	5.5	5.0	4.8	4.6	5.0	5.4	5.1	4.9	5.4	5.16	5.2

2, 年間スケジュール ※9月より月初に児童同士にて話し合い当月の目標を決定

4月【春休み】	5月【春休み】	6月【春休み】
<ul style="list-style-type: none"> ・春休み活動（就労体験・余暇活動） ・オンライン工場見学の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・春休み活動（就労体験・余暇活動） ・在宅支援（オンライン活動）実施 ・オンライン工場見学の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童部門会議の実施 ・在宅支援（オンライン活動）実施
7月	8月【夏休み】	9月
<ul style="list-style-type: none"> ・防犯教室の実施 ・交通安全教室の実施 ・夏祭りの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み活動（就労体験・余暇活動） ・書道教室の実施（書道コンクールに出展） ・工場見学（海千、九電） 	<p>時間を守る・仕事の練習を頑張る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童部門会議の実施 ・避難訓練
10月	11月	12月【冬休み】
<p>風邪予防をする・仕事の練習を頑張る・じゃんぷに来るのを頑張る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童部門会議の実施 ・事業所説明会の実施 ・さつき学院合同活動 	<p>すぐに怒らず頑張る・運動をする・日直を頑張る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童部門会議の実施 ・パレットピクニック・リトルさつき祭りの実施（販売体験の実施） ・親子イベント（ウォークラリー）の実施（ほっぷ合同） 	<p>感染対策（手洗い、うがい、消毒）をする・大きな声で返事挨拶をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬休み活動（就労体験、余暇活動） ・さつき学院合同活動（宗像市食生活改善推進会との料理教室） ・ほっぷ合同活動活動（おやつ作り）
1月【冬休み】	2月	3月【春休み】
<p>感染対策（手洗い、うがい、消毒）をする・疲れた時、不安な時は先生に相談する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬休み活動（就労体験・余暇活動） ・児童部門会議の実施 ・書初め教室の実施 ・初詣（ほっぷ合同） 	<p>感染対策（手洗い、うがい、消毒）をする 時間を守る・テーブルをきれいにする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童部門会議の実施 ・バレンタイン活動 ・虐待研修の実施（アンガーマネジメント） 	<p>感染対策（手洗い、うがい、消毒）をする・中学生、高校生らしい行動をする・困った時は先生に相談する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春休み活動（就労体験・余暇活動） ・避難訓練 ・卒業イベントの実施

3. 実施報告

【利用者のために】

《就労体験の実施》

- ・同法人内の就労施設（はまゆうワークセンター宗像、はまゆうワークセンター自由ヶ丘）にて就労体験を行った。各就労施設の特徴を活かした作業等を体験することができ、将来の就労意欲の向上と、児童の対応力を伸ばす機会になった。

《地域交流活動の実施》

- ・地域交流活動を積極的に行い、社会性（あいさつ、施設のルール、マナーを守るなど）を養う機会になった。また「玄海自然の家」にて体育館等を借り活動を行うことで、地域資源を活かした活動を行うことができた。

《オンライン活動の実施》

- ・コロナ禍であった為、オンラインでの活動を積極的に実施。在宅支援を余儀なくされた児童に対してもオンラインでの活動を提供し継続した支援を行うことができた。児童の孤独感、閉塞感の緩和に繋げることができた。また外出活動を制限されることが多かった為、オンラインでの工場見学を行い、楽しみながら見識を広げる活動を行うことができた。

《他事業所との合同活動の実施》

- ・児童部門（げんきっこくらぶ ほっぷ・げんきっこくらぶ じゃんぷ）での合同活動として「紙すき（ほっぷ担当）」→「しおり作り（じゃんぷ担当）」を行い、各事業所での児童間の交流や、「ものづくり」に対する興味・関心を持つことに繋がった。また「さつき学院 宗像キャンパス」と合同活動を行い、児と者の交流を図る活動を行うことができた。

（令和2年度は2回さつき学院との合同活動を実施）

【職員のために】

《アイデアの具現化》

- ・コロナ禍で活動が制限される中、アイデアを出し合い顧客満足度を高める活動に繋げることができた。またアイデアを具現化することで職員のモチベーションアップにも繋がった。

《法人内の他事業所との連携強化》

- ・法人内の各事業所との繋がりを持つことで職員間の交流や助言を受ける機会を作ることができた。

《研修》

- ・法人内研修にて、パート職員も参加をお願いし、虐待研修（アンガーマネジメント）を行い、各職員の自己研鑽に繋げることができた。

《児童部門会議の実施》

- ・児童部門会議（「げんきっこくらぶ ほっぷ」「げんきっこくらぶ じゃんぷ」「障がい児・者地域生活センターはまゆう（相談支援専門員）」）を行うことで、円滑な情報共有と他事業所の価値観を受け入れ活動等を見直す機会になった。

【社会のために】

《ノーマライゼーションの実現に繋げる活動》

地域の資源を活用した活動や、法人主催のイベントに積極的に参加し販売体験等を行うことで地域の人との交流を図ることができた。

《ボランティア活動》

- ・ボランティア活動へより興味・関心を持ってもらう為、月に1回程度で利用児童・保護者に呼びかけ海岸清掃を行った。
- ・地域清掃活動の一環として、宗像大社の清掃活動を行った。

《障がいがある人の高校卒業後選択を増やす》

- ・じゃんぷの卒業生3名中2名が令和2年度4月開校の福祉型学校「さつき学院 宗像キャンパス」に入学し、高校卒業後の進路の選択肢を増やすことができた。

ライフアップはまゆう 令和2年度 事業報告書

1,実施サービス

■共同生活援助

令和2年度利用実績(3月末実績)	
ホーム1：サニーヒル	7名/7名
ホーム2：シーサイドヒル	6名/7名
ホーム3：フローラ	5名/7名 (うちサテライト型住居：1名)
入居者数(総数)	18名(男 12・女 6)/21名
新規入居者数	1名
退所者	1名

《区分割合》

障害程度区分	サニーヒル	シーサイドヒル	フローラ
1以下	0名	1名	0名
2	2名	1名	1名
3	0名	0名	3名
4	3名	4名	1名
5	2名	0名	0名
6	0名	0名	0名

■空床型短期入所（定員1名）

令和2年度利用実績(3月末実績)	
契約者数(総数)	3名(男1・女2)
平均利用者数(月)	0.6名/月
平均利用泊数(月)	7.3泊/月

《利用者数内訳》

4月	5月	6月	7月	8月	9月
24	30	0	0	0	0
10月	11月	12月	1月	2月	3月
0	0	4	10	14	6

2,年間スケジュール

4月	5月	6月
・ピクニック	・食事会 ・大掃除（フローラ）	・小グループイベント①(ウォーキング)
7月	8月	9月
・小グループイベント②(ドライブ) ・手持ち花火大会	・避難訓練 ・食事会	・小グループイベント③(DVD鑑賞)
10月	11月	12月
・小グループイベント④(山登り)	・大掃除(シーサイドヒル) ・第二回リトルさつき祭り	・防災教育 ・クリスマスディナー ・食事会
1月	2月	3月
・避難訓練	・GH 合同旅行 ⇒新型コロナウイルスの影響で中止	・大掃除(サニーヒル) ・忘年会

3,理念実現プラン

<利用者のために>

- ・新型コロナウイルスの影響により出勤できなくなった一般就労の入居者に、日中グループホームで出来る作業を提供し、定期的な様子の確認を行った。また出勤日や本人の体調等について勤務先と調整を行った。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止を考慮して、保護者会は中止し、書面にて事業報告を行った。また、各入居者に聞き取りを行い、それぞれの課題やニーズを確認した上で、個別支援計画書の作成を行った。
- ・新型コロナウイルスの影響で予定していた余暇活動は出来ないものが多かったが、少人数での活動やホームごとでのイベントを主に、内容や場所を工夫して余暇活動を提供した。また、今まで公共交通機関を利用して休日の買い物を楽しんでいた入居者については、必要に応じて職員が付き添い、日用品等の買い出しをした。
- ・お盆や年末年始などの長期休みには、テイクアウトを利用して、帰省のない入居者に向けた食事会を開催した。
- ・手持ち花火大会やクリスマス会など季節に合ったイベントを行った。
- ・避難訓練を実施し、入居者・職員ともに火災が起こった時に迅速に動けるよう、避難経路の確認をした。
- ・各ホームごとに大掃除を実施し、入居者の居室を重点的に掃除する等、住環境の再考を行った。

<職員のために>

- ・月に1度、職員会議を実施し、利用者のケース検討や行事の起案等について話し合った。また、職員会議の議事録を全職員に回覧し、情報の共有を強化した。
- ・管理者と週一回定期的に打ち合わせを行い、相談体系の強化を図った。
- ・グループウェアを活用して、事業所内のみならずはまゆうワークセンター宗像等、他事業所とも迅速に入居者の状態等について引継ぎが出来るような仕組みを作り、情報共有や早期対応に努めた。

<地域のために>

- ・新型コロナウイルスの影響により、地域のイベントが中止となり、関わりの場を持てなかった。